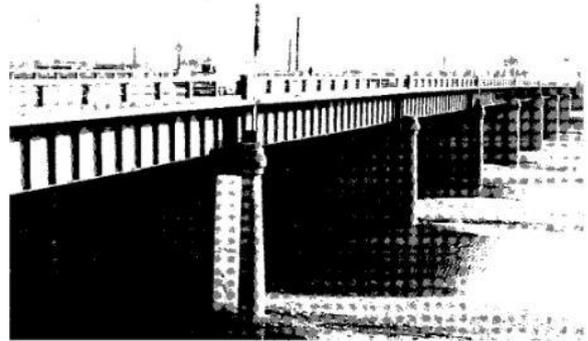


## 遠里小野橋(おりおのはし)



写真1 現在の遠里小野橋



遠里小野橋（昭和5年完成）

写真2 初期の遠里小野橋

### (1) 橋の諸元

所在地：大阪府堺市堺区遠里小野町1丁3

道路名：国道16号線（現国道26号線）

河川名：大和川

建設年：1930年3月（昭和5年）松尾鉄骨橋梁製作

形式：鋼製桁橋（カンチレバープレートガーター）

橋長：188.2m(23.5m@8=188.0m)

幅員：10.9m以後拡幅（ $14.55\text{m}+2@1.85\text{m}=18.25\text{m}$ ）

（出展：松村博 大阪の橋／藤井郁夫編 橋梁史年表）



所在地 地図

## (2) 周辺環境と橋の歴史

遠里小野橋は、周辺の自然環境や景色が美しいことで知られている。特に、橋の上からは、大和川の清流や周辺の緑豊かな風景を眺めることができる。また、橋の近くには、散策やピクニックの楽しめる公園や桜の名所もある。

遠里小野橋の歴史は律令時代にさかのぼる。律令時代は、日本の歴史において710年から794年（奈良時代）に位置する時代であり、国家体制や法律体系が整備された時期である。橋の名称は、古くから遠い位置から眺める景色が美しいことから「遠里小野」と呼ばれていたことに由来している。「住吉の遠里小野（おりおの）の真榛（まふさ）もち摺れる衣の盛り過ぎゆく」（万葉集）この歌は、住吉神社と遠里小野（おりおの）地方に関連している。住吉神社は日本各地にある神社で、航海や安全、商売繁盛などの神様として信仰されている。遠里小野は、前にも述べたように「万葉集（編集：8~9世紀）」において頻繁に詠まれる場所で、この歌でも言及されている。歌の内容は、「住吉神社に参拝する際に、真榛（まふさ）という植物で作られた摺れる衣を身に」との意である。海の神である住吉神社の存在から、室町時代には、現在の大和川よりも幅が広く、河口付近は海に面していた。そのため、遠里小野は、海岸沿いの集落として発展していたのは事実のようである。

その土地に、本格的な遠里小野橋が存在するようになったのは、江戸時代後期のことだ。当時、堺は、日本有数の商業都市として栄えていた。遠里小野橋は、堺の玄関口として、多くの人や物資が行き交う重要な橋となった。このような古い歴史があるにも関わらず、近代的な橋は、1930年(昭和5年)によりやく架橋された。現在の鋼製鉄桁は、建て替えられたが、写真5を見ると、構造的には現代的になっており、メンテナンスもしっかり行われているようである。しかし、ラテラル部材（横構）がなく耐震性は若干劣ると思われる。



写真3 鋼製鉄桁



写真4 橋名版



写真 5 桁裏格子構造(左:水道管 )



写真 6 橋面 歩道と車道